

様式第10（第9条の2関係）

汚濁負荷量測定手法届出書

年 月 日

様

届出者

(氏名又は名称及び住所並びに法人にあっては代表者の氏名)

水質汚濁防止法第14条第3項の規定により、汚濁負荷量の測定手法について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称		※整理番号	
工場又は事業場の所在地		※受理年月日	年 月 日
△汚濁負荷量の測定手法	別紙のとおり。	※備考	

- 備考
- △印の欄の記載については、別紙によることとし、かつ、できる限り、図面、表等を利用すること。
 - ※印の欄には、記載しないこと。
 - 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格A4とすること。
 - 氏名（法人にあってはその代表者の氏名）を記載すること。

別紙

汚濁負荷量の測定手法

		指定項目の別		
1	特定排出水の区分	計測方法		計測場所
		汚染状態	特定排出水の量	
				別図のとおり
				別図のとおり
				別図のとおり
				別図のとおり
				別図のとおり
2	特定排出水の区分	特定排出水の1日当たりの汚濁負荷量の算定方法		
3	参考事項			

備考 汚濁負荷量の測定手法の記載にあたっては、指定項目ごとに作成すること。

その他の汚濁負荷量の測定に必要な事項

		指定項目の別	COD		
特定排出水の区分			特定排水	特定排水以外の排水	排水
汚染状態の計測方法	水質自動計測器等の種類 (注1)	選定の根拠	測定回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠
	換算式 (注2)		換算式の根拠		
	工事着手予定年月日		備考		
	計測開始予定年月日				
年 月 日					
年 月 日					
量の計測方法	流量計等の種類 (注1)	選定の根拠	測定回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠
	☆換算式 (注2)		換算式の根拠		
	工事着手予定年月日		備考		
	計測開始予定年月日				
年 月 日					
年 月 日					

(注1) 形状図、仕様書 (又はカタログ) 等を添付すること。

(注2) 換算式の算定の基礎となったグラフ、データ等を添付すること。

☆ 用水の量を計測することにより特定排水の量、又は特定排水以外の排水の量を計測する場合のみ記入すること。

その他の汚濁負荷量の測定に必要な事項

		指定項目の別	窒素含有量		
特定排出水の区分			特定排出水	特定排出水以外の排出水	排出水
汚染状態の計測方法	水質自動計測器等の種類(注1)	選定の根拠	測定回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠
	自動計測器の性能基準(注2)	ゼロ校正液	① 計測回数 回 ② 各計測値とその平均値との差の、最大目盛値に対する比率： ～ %		
		標準試料溶液	① 計測回数 回 ② 計測値の平均値と標準試料溶液濃度との差の標準試料溶液濃度に対する比率〔又は濃度差〕： % [mgN/L]		
		実試料	① 計測回数 回 ② 計測値の平均値と指定計測法による測定値の平均値との誤差率(注4)〔又は濃度差〕： % [mgN/L]		
	工事着手予定年月日	備 考			
	計測開始予定年月日				
年 月 日 年 月 日					
量の計測方法	流量計等の種類(注1)	選定の根拠	測定回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠
	☆換算式(注2)		換 算 式 の 根 拠		
	工事着手予定年月日	備 考			
計測開始予定年月日					
年 月 日 年 月 日					

(注1) 形状図、仕様書(又はカタログ)等を添付すること。

(注2) 性能基準及び換算式の算定の基礎となったグラフ、データ等を添付すること。

(注3) 誤差率は、次式により求めること。なお、実試料試験を最大目盛値の50%に満たない濃度の試料で行った場合は、誤差(%FS)により求めること。

$$\text{誤差率(\%)} = \frac{[\text{自動計測器の計測値の平均値}] - [\text{指定計測法の測定値の平均値}]}{[\text{指定計測法の測定値の平均値}]} \times 100$$

☆ 用水の量を計測することにより特定排出水の量、又は特定排出水以外の排出水の量を計測する場合のみ記入すること。

その他の汚濁負荷量の測定に必要な事項

		指定項目の別		りん含有量			
特定排出水の区分				特定排水	特定排水以外の排水	排水	
汚染状態の計測方法	水質自動計測器等の種類(注1)	選定の根拠	測定回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠		
	自動計測器の性能基準(注2)	ゼロ校正液	① 計測回数 回		② 各計測値とその平均値との差の、最大目盛値に対する比率： ～ %		
		標準試料溶液	① 計測回数 回		② 計測値の平均値と標準試料溶液濃度との差の標準試料溶液濃度に対する比率 [又は濃度差]： % [mgP/L]		
		実試料	① 計測回数 回		② 計測値の平均値と指定計測法による測定値の平均値との誤差率(注4) [又は濃度差]： % [mgP/L]		
	工事着手予定年月日	備 考					
	計測開始予定年月日						
年 月 日							
年 月 日							
量の計測方法	流量計等の種類(注1)	選定の根拠	測定回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠		
	☆換算式(注2)		換 算 式 の 根 拠				
	工事着手予定年月日	備 考					
計測開始予定年月日							
年 月 日							
年 月 日							

(注1) 形状図、仕様書(又はカタログ)等を添付すること。

(注2) 性能基準及び換算式の算定の基礎となったグラフ、データ等を添付すること。

(注3) 誤差率は、次式により求めること。なお、実試料試験を最大目盛値の50%に満たない濃度の試料で行った場合は、誤差(%FS)により求めること。

$$\text{誤差率(\%)} = \frac{[\text{自動計測器の計測値の平均値}] - [\text{指定計測法の測定値の平均値}]}{[\text{指定計測法の測定値の平均値}]} \times 100$$

☆ 用水の量を計測することにより特定排水の量、又は特定排水以外の排水の量を計測する場合のみ記入すること。

